

2015年10月3日

津軽地域ケアネットワーク ～顔の見える連携を目指して～

津軽地域ケアネットワーク 1

成り立ち

県看護協会主催の橋渡しナース研修会で出会った
弘前大学医学部附属病院・健生病院・ときわ会病院の看護師長3名が中心に

2007年（平成19年）3月6日

「津軽圏域包括ケアネットワーク準備交流会」

- ◆顔の見える連携
- ◆弘前を中心とした医療機関の連携実務者が対象
- ◆12医療機関

2007年（平成19年）6月22日（要綱公表日）

『津軽地域ケアネットワーク』名称が決定

- ◆会員17医療機関

2015年（平成27年）6月現在

- ◆会員27医療機関 賛助会員1機関

津軽地域ケアネットワーク 2

要綱（一部抜粋）

第1条 名称

本会は、津軽地域ケアネットワークとする。

第2条 目的

本会は、津軽地域における地域連携担当者の情報の共有及びスキルアップの場とする。利用者が安心して円滑に地域での生活に戻れるよう、地域の関係機関との連携作りを推進することを目的とする。

第4条 会員

本会は、津軽地域における地域連携担当者（看護師・ソーシャルワーカー・事務員など）をもって構成する。また、本会の趣旨に賛同した会員（賛助会員）をもって構成する。

津軽地域ケアネットワーク 3

取り組みと運営

◆役員（任期1年）

会長1名、副会長2名、事務局1名、会計1名、監査1名

◆会費

1機関 年3,000円

◆定例会を年3回（6月、10月、2月）開催

定例会毎に企画担当の3病院を決定
役員と企画病院で2～3回企画会議を行い、定例会を開催
医療機関紹介、連携室業務紹介、グループワークなど
定例会後はNEWSを参加機関へ発行

津軽地域ケアネットワーク 4

定例会

【6月】

総会、施設名簿更新、連携実務者紹介、懇親会など

【10月】

津軽地域ケアネットワーク交流会など

【2月】

医療機関紹介、連携室業務紹介、グループワークなど



津軽地域ケアネットワーク 5

施設名簿の作成

会員・賛助会員の名簿作成

グループワークで書式検討

- ◆連携窓口情報の開示
- ◆病床区分や診療科
- ◆転院時の受け入れ条件など



施設名	施設種別	施設所在地	施設長	連絡先	連携窓口
弘前大学医学部附属病院	総合病院	弘前市	佐藤 隆夫	019-233-1111	看護部
健生病院	総合病院	弘前市	佐藤 隆夫	019-233-1111	看護部
ときわ会病院	総合病院	弘前市	佐藤 隆夫	019-233-1111	看護部
津軽地域ケアネットワーク事務局	事務局	弘前市	佐藤 隆夫	019-233-1111	事務局

津軽地域ケアネットワーク 6

患者情報提供用紙の統一

以前は、各医療機関が独自の情報提供用紙を使用していた…

グループワークで書式検討(1)～(3)

- ◆各医療機関が欲しい情報を1枚に
- ◆介護支援専門員も活用できる
- ◆看護要約として代用



津軽地域ケアネットワーク 7

津軽地域ケアネットワークの成果

- ・施設間で電話がかけやすくなった。
まさに、「顔が見える連携」!
- ・施設名簿、患者情報提供用紙を活用中
- ・入院・転院時の情報交換がスムーズに!
- ・精神科の病院も含めた連携
- ・地域の他団体との連携が積極的に行われ、地域包括ケア実践の足掛かりができた

津軽地域ケアネットワーク 8

津軽地域ケアネットワークの課題

- ・地域包括ケア実践に向け、地域との連携の拡大と強化
- ・顔の見える連携から腹の見える連携へ
～ お互いの思い・立場を理解した連携～
- ・連携実務者のスキルアップ

ご清聴ありがとうございました。

津軽地域ケアネットワーク 9